

KUCAヒアリング資料に対する質問(R3/7/5送付版)

NO		質問	ページ	該当箇所	回答	京大 No	ヒアリン グ日	備考
1	事実確認	線型出力系の指示値は、核計装の検出器位置によってある程度の幅で変化する。炉心の出力上昇に対するスクラムを担保している安全出力系について、出力範囲をカバーできることを示すこと。また、高濃縮ウラン炉心における炉心配置の実績を示すこと。また、線型出力系と機器構成、機能で相違する点があれば比較すること。	3	2-1				
2	事実確認	出力運転中の制御棒の異常なひき抜きについて、初期出力の変化範囲が100-80Wとしているが、1Wまでの範囲で評価すること。 (以前の資料でより低出力の範囲で結果が大きくなっていたが、今回の結果との関係を説明すること)	22	2-2				
3	記載	事象に対する解析結果の図表は、各事象の節の中に記載すること。	34,36	2-2				
4	記載	炉心タンクヒータによる温度上昇については、対象となる反応度係数が正になる4炉心の結果について解析結果が示されていない。	52	2-6				
5	事実確認	燃料の機械的破損について、FP放射能を運転終了後1日で評価しているが、FP放射能は運転終了後の冷却時間によって数桁にわたって変化する。高出力運転後の炉心交換作業について作業開始をどのように制限しているか、また、今回設定している冷却時間は運用管理において担保されることを説明すること。	76	3-8				
6	記載	実験設備、実験物等の著しい損傷について、サンプル価値評価のためのインボータンス分布（炉心中央に設置した場合の0.1% Δk/kの重量を評価していますが、炉心挿入位置により相当重量は変化するはず。重量範囲として過少評価になっているのでは）	86	3-8				
7	記載 解析条件	実験設備、実験物等の著しい損傷について、(2)初期条件において、試料は各炉心で熱群の中性子束が最大値となる場所に固定していたとするとの記載がある。熱群の中性子束が最大値となる場所は各炉心によって異なり、炉外となることもあり得る。ところが、試料の反応度計算においては、「炉心の中心に入れたことを想定して」との記載があり、初期条件と矛盾している。	86	3-8				
8	解析条件	実験設備、実験物等の著しい損傷について、反応度が試料の重量に比例するとの記載があるが、試料の重量が増えると一次摂動が成立しなくなる恐れがあるため、表9-1の試料の重量にどの程度の誤差があるのかを確認する必要がある。また、試料の組成、幾何形状等についても示す必要がある。(確認計算ができないため)	86	3-8				
9	データ確認	燃料損傷に伴う被ばく線量について、評価で使用している換算係数が希ガス、ヨウ素について示されているが、各核種について示すこと。	84,85	3-8				

10	データ確認	サンプル資料の破損による被ばく線量について、評価で使用している換算係数が希ガス、ヨウ素について示されているが、各核種について示すこと。	89,90	3-9				
----	-------	---------------------------------------------------------------------	-------	-----	--	--	--	--